（様式

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立落合第六小学校

■　学校の共通目標

授業作り	重点	友達との関わりの中で児童が自ら考え、表現できるような指導内容の工夫を図る。ＩＣＴ機器などの活用を通して、個別学習への深まりをめざす。	中間評価	ＩＣＴ機器の活用しながら、児童一人ひとりに最適な課題を設定し、解決できるよう日々取り組んでいく。	最終評価	
環境作り		主体的に児童が学び合う場と機会の設定を行うとともに、特別支援教育・ユニバーサルデザイン・個別学習の視点を取り入れた環境作りを行う。		話し合いの場の設定を工夫したり、児童の興味・関心に応じた課題を設定したりして、主体的に学んでいく児童を育成している。今後も児童にとって学びやすい環境を整えていく。		

■　学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課　題（10 月）	改善のための取組（10 月）	最終評価（２月）
1	国語	学　ひらがな・かたかなはほとんどの児童が読み書きできているが、助詞や新出の漢字についてはまだ十分に身に付いていない状況である。 学　物語文、説明文など、多様な文章を読み、内容を理解できているが、話し手に集中して聞く姿勢が十分に身についていない状況である。	・自分の気持ちを文として表現することに困難を感じる様子が見られる。 ・読解力は、伸びてきているが、登場人物の気持ちを想像し文章等で表現する力がついていない。 ・話し手が話している間、話の内容をきちんと把握できる力を養っていく必要がある。	・感想や自分の意見の発表の機会を多くとり、感想や手紙を書くなど自己表現の幅を広げるように指導をしていく。 ・場面ごとの状況をつかませたり、タブレット端末の録画機能活用し、自己の表現方法について振り返る機会を設けたりすることで、登場人物の気持ちや行動をより深く表現する読み方を工夫させる。 ・友達の意見を聞く際に、よいところを探す活動などを取り入れ、集中して聞く姿勢を養う。	
	算数	学　10 までの加法・減法については、多くのの児童が習得し、定着している 学　長さなど、具体物の実測を通して比較することはできるが、任意単位に換算することが苦手な児童がいる。	・計算では、時間がかかる児童もいる。繰り上がりや繰り下がりでは、計算方法の理解や習得に課題がある児童もいる。 ・文章問題や考えたことの説明に難しさを感じる児童がおり、思考力が課題になっている。	・計算方法について、ノート指導を含めて丁寧に指導し、足し算や引き算の考え方を定着させるとともに、デジタルドリルやワークドリルなどを活用して計算スピードを上げていく。 ・既習内容から発展させ、立式できるように、言葉の意味を分かるまで説明をし、理解につなげていく。	

学年	教科	学習状況の分析（４月）	課　題（４月）	改善のための取組（４月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（２月）
2	国語	学　既習の漢字の活用についてまだ十分に身に付いていない状況である。 学　話し手の思いを受け止めながら聞こうという姿勢が十分には身に付いていない状況である。	・既習の漢字について、正確に書き取る力を伸ばす必要がある。 ・相手の言葉を手掛かりにしながら、その人がうまく言葉にできない思いや考えや意図をくみ取って聞く姿勢を養っていく必要がある。	・板書やノートづくりの中で、既習の漢字を活用するとともに、デジタルドリルやプリントなどで繰り返し練習を行い、習熟を図っていく。 ・話し合い活動の目的、内容、相手、方法や形態を明確にするとともに、児童が必要感を持てるようなテーマ設定にする。また、話し合い活動の中で友達に共感したり、共感してもらったりする経験を積むことで、話し手の思いを受け止めながら聞こうという姿勢を養っていく。	・デジタルドリル、小テスト等を活用したり、既習の漢字の復習タイムを設けたり、既習の漢字の定着を図っているが、定着の度合いについては個人差が大きく、引き続き、取組を継続していく必要がある。 ・２人組での話し合い、４人組での話し合いなど、少人数での話し合いの経験を積ませ、友達と話し合う楽しさや良さを味わわせている。少人数では友達の意見を受け止める姿勢が見られるようになってきている。一方で全体の中で友達の意見を聞く姿勢や態度については課題が残る。今後は、「話している友達を見る」「友達の話は最後まで聞く」など、全体の中での友達の意見の聞き方について指導をしていく。	
	算数	学　繰り上がりのある足し算や、繰り下がりのある引き算において指を使って計算している児童もおり、学級内において、計算力に大きな差がある状況である。	・基本的な計算の技能について、速さと正確性を伸ばす必要がある。	・学習速度が速い児童にはデジタルドリルを有効活用し応用問題などに取り組ませる。また、個別指導を行う必要がある児童については、休み時間や放課後の時間を活用し、計算スキルの向上を図っていく。	・復習タイムを設けて、繰り返し基礎的な計算スキルの定着を図っている。また、宿題としてデジタルドリルを活用し学習内容の習熟を図っている。今後は、２学期中に九九を定着させるために九九検定に取り組んだり、九九の暗唱を宿題に出したりするなど学校や家庭で反復練習を行っていく。 ・テストの間違い直しを確実に行い、間違えた原因について認識し、正しい解法を身に付けるようにしている。引き続き、間違い直しに丁寧に取り組み、必要に応じて個別指導を行っていく。	

3	国語	調　令和３年度新宿区学力調査によると、「書くこと」は区の平均より 20 ポイント程度、「話すこと・聞くこと」は区の平均より 10 ポイント程度低い。 学　授業では、発言する児童に偏りが見られる。提出される課題やワークテストの状況を見ると、文字を書くことに対して苦手意識が強いと感じる。既習漢字や促音などについても誤りが見られ、まだ十分身に付いていない状況である。	・話に興味を持ち、自分と比べながら、話したり聞いたりする力を伸ばしていく必要がある。 ・自分の考えを書く力を伸ばしたり、文章を書くことへの抵抗を減らしたりしていく必要がある。 ・新出漢字の正確な書き取りが不十分である既習の漢字について、正確に書き取る力を伸ばす必要がある。	・最後まで話を聞くことを、常に意識させる。 ・スピーチや話し合いの前には、自分の考えを整理して伝えたいことを明確にすることや、話の構成を考える時間を設定し自信をもって話し出せるようにする。 ・単元ごとに実施する漢字の小テストでは、間違った文字の直しを確実にさせる。家庭学習プリントやデジタルドリルを活用し、繰り返し課題に取り組ませ定着を図る。	・既習漢字について習熟できていない児童がいるので、確認テストを継続していく。 ・問われていることや話題の中心を捉えられていない児童が多ので、問題文にライン引きさせたり、聞き取りメモを書かせたりするなど、話の中心を焦点化することで理解を促していく。 ・１０月より「書く」課題を毎週末に家庭学習として出すことで、継続指導していく。	
	算数	調　令和３年度新宿区学力定着度調査によると、「長さ・かさ」の問題で、区の目標値より低い数値となった。計算力も確実な定着には及んでいない 学授業にはどの児童も、意欲的に臨んでいて、新しい学年、学級での活動を前向きにとらえているように見取っている。	・計算の技能のより確実な定着が必要である。 ・自ら計画を立て、見通しをもって学習に取り組もうとする意欲と態度を育てる必要がある。 ・学習への集中力を高める必要がある。	・「測定」領域で具体的な捜査活動の充実や前年度までの学習のふりかえりからの単元導入などの工夫を図る。 ・タブレット端末による学習とともに、プリントやドリルによる学習の積み重ねを意図的に行っていく。	・東京ベーシック・ドリルの診断テストを活用し、グラフのかき方の指導を行った。多くの児童が、多い順にかくことができるようになった。 ・授業の準備の呼びかけを繰り返し行い、自分の定規、コンパスで活動が行えるようにする。デジタルドリルが授業内でも活用できるように授業展開を工夫していく。	
4	国語	調令和３年度新宿区学力調査によると、漢字の書き取りが目標値より約３ポイント以上高い。 調話し手が伝えたいことの中心や登場人物の気持ちを捉えることが目標値より低い。	・引き続き、漢字も学習は復習を中心に含めて振り返りを行っていく必要がある。 ・一人ひとりに読解力をつけていくことが必要である。 ・５W１Hを意識し、自分の考えを分かりやすく示していく方法を知り、活用できるようにすることが必要である。 ・自分の関心ごとのある文章だけでなく、指定された長さや題材など、条件を付随させて文章を書く力を伸ばしていく必要がある。	・新出漢字の反復練習と、辞書を使って言葉を増やしていく。 ・接続詞や語尾などに着目したり、人物の行動や気持ちに線を引いたりするなど、重要な文章を見つける力をつける。 ・朝の会で 5W1H を意識させたスピーチをし、文章を構成する際や発表の際に、活用できるようにする。	・「読む力」向上のため、接続詞や文末表現に着目させ、筆者の主張や考えの根拠を明らかにする方法を継続的に指導していく。 ・文章から、重要な語句を探したり、必要な個所をつなぎ合わせて要約文を書いたりすることを通して、「読む力」「書く力」の向上に努める。 ・都道府県を含めた漢字学習は、書き取り練習とテストを交互に行いながら、反復練習を継続していく。 ・辞書の活用、読書時間の確保をし、語彙力の向上を目指す。	
	算数	調令和３年度新宿区学力定着度調査によると、「図形」や「測定」領域で、区の平均値を下回っていた。 調令和３年度新宿区学力定着度調査によると主体的な態度について、区の平均値を下回っていた。	・たし算、引き算、かけ算の基礎的な計算にミスが見られるので、見直しすることを習慣付ける必要がある。 ・文章題において、聞かれている内容を読み取れていないことや単位を書き間違えることが多いので、振り返りの場を作り、定着を図っていく必要がある。	・より確実な習得の確認や、時間を空けて振り返り学習を行っていく。 ・文章問題に必ず取り組むとともに、デジタルドリル等を活用して類似問題を用意し、繰り返し多くの問題に取り組めるようにし、計算力を高める。 ・確かめ算等の活用をすすめ、解き間違いを減らす。	・わり算の学習において、検算（確かめ算）の重要性に気付いた児童が多く、解き間違いを見直すとともに、商の見積もりなどでも留意できるようになっている児童が増えている。 ・２学期に入り、授業に臨む様子が主体的になっている児童が増えている。 ・少人数指導のコースに合わせて、教科書の例題、練習問題をより丁寧に行い、題意の読み取りや学習内容の理解がしっかりできるように指導を重ねていく。また、児童の進度に合わせて、教科書の補充の問題や計算スキルドリルやデジタルドリルを活用する時間も設けられるように心掛ける。	
5	国語	調令和３年度の新宿区学力定着度調査の結果では、正答率が６割から７割であった。「漢字の読み書き」では正答率の平均が目標値を約２ポイント、「物語の内容を読み取る」では、5ポイントも上回っていた。一方で、「書くこと」においては、課題がみられる。	・習った漢字をテストだけでなく、ノートなどで日常的に使えるようにしていく必要がある。 ・自分の考えを相手によりよく伝えるために、文章の構成や語彙力を増やしていく必要がある。	・漢字の反復練習や、読解問題への継続的な取り組みと、接続語や文末表現に着目して読むことを徹底して行っていく。 ・接続語や、効果的な慣用句の使い方など、多くの表現方法を示して、「書くこと」への苦手意識を払拭し、目的意識をもって書く習慣を身に付けさせていく。	・丁寧に書こうとする意識が高まってきている。「読むこと」については、文章から根拠や説明を見出していくという方法が理解できてきている。 ・漢字の音訓や成り立ちなど、言葉に対する理解が十分ではないため、デジタルドリルや学習プリントを活用して定着を図っていく。 ・「書くこと」の課題を多く設定してきたことで、文量が増えてきた。一方で、伝えたい中心をはっきりしたり、相手に伝わりやすい言葉を選んだりすることには課題があり、語彙力を増やしていく。 ・課題解決に向けて話し合う活動や情報をまとめて発表する活動に、積極的に取り組む児童が多く、楽しみながら人と関わり合いながら学習している。	

	算数	調令和３年度新宿区学力定着度調査によると、「数と計算」領域が全国平均を下回っていた。このことが、教科全体での到達度の低下を招いていると考える。 学意欲的に授業に臨む児童が少なくないが、主体的な態度も区の平均値を下回っていた。	・自分でやろうとする態度を大切に、各単元の見通しをガイダンスし、数学的活動を取り入れた指導を進めてきたが、学力の向上が今一つ図れない状況であるので、タブレット端末のデジタルドリルなどでの習熟を自ら行うようにする働きかけと学年全体のムードの高揚が必要である。	・自主的に学ぶ力を養う、解き方や表し方を自分で、（教科書等を見て）調べ、身に付けていく。 ・単元の評価テストで間違えた問題のふり返りと間違い直しを行うよう指示し、期末の確かめテストでの確認を行う。	・２学期に入り、授業に臨む様子が主体的になっている児童が増えている。計算や作図に対する丁寧さや正確さを自ら追究する児童も多くなっている。 ・自分の解き方だけでなく、別の解き方、よりよい解き方を考えたり理解しようとしたりする児童も見られるようになっている。 ・少人数指導のコースに合わせて、教科書の例題にかける時間を調整し、学習内容を主体的かつ問題解決的に理解、深化できるよう指導を工夫している。タブレット端末のデジタルドリルでの習熟を行うことができるような単元展開も心掛けている。	
6	国語	調　「話すこと・聞くこと」の領域において、区平均よりも５ポイント高かった。日ごろから小集団での話し合い活動を進めてきた成果である。 学「書くこと」においては、課題がみられる。国語に限らず、他教科でも目的をもって書く習慣をしっかりと身に付けさせる必要がある。	・書くことに苦手意識を抱いている児童が多いので、苦手意識をなくしていく必要がある。 ・主語、述語、修飾語などの使い方を知り、文を構成する力を身に付ける必要がある。	・目的や意図に応じた、筋道の通った文章になっているか、他者と読み合うことで推敲していく力を養う。 ・短文を書く機会を増やすことで書くことの苦手意識を改善していく。 ・新出漢字の定着を図るためにデジタルドリル等を用いた繰り返し学習を行う。	・他者との読み合いをすることで、自分自身の文章を客観的にとらえ、推敲しようとする力が少しずつ付いてきた。 ・人前での発表する経験を教育活動全般に渡って行うことで、相手を意識した「伝わる」表現ができるようになってきた。 ・漢字小テストを定期的に行うことで、新出漢字の定着を図ることができた。一方で、文章を書く際、既習漢字を積極的に用いない児童もみられるため、日ごろから漢字を用いるよう引き続き指導していく。	
	算数	調令和３年度新宿区学力定着度調査が一昨年度より 2.1 ポイント下がった。特に「変化と関係」「データの活用」領域が課題であった。 学昨年度、意欲的に授業に臨む児童が多くなったが、年度が替わって、その様子が減退している。その単元の学習内容は理解できていると思われる児童たちの意欲も下降気味の様子が見られる。	・学習に前向きに取り組み、自らチャレンジしようとする意欲を高めていく必要がある。 ・共に学び合い高め合う気持ちの醸成と授業での助言や指示を受け入れる態勢を養っていく必要がある。 ・その単元の内容の理解で終わらず、つなげる、ひろげる学び方をしようとする態度を涵養していく必要がある。	・自分でやろうとする意欲を大切にした指導を心掛け、その子の頑張りを見取り認め励ます。 ・多くの児童に受け入れられる授業づくり、学習材の提案のための教材研究と人間関係（ラポール）の改善に努める。 ・日常生活、ニュース、新聞等社会での出来事に関連した学習へのアプローチを図る。	・東京ベーシック・ドリルの診断テストA（４月）～B（７月）では、僅かながらだが正答率の向上が見られた。問題により丁寧に取り組む意識が向上している児童の姿が感じられた。 ・少人数指導のコースをレディネスチェックによる習熟度に合わせてより重点化し、教科書の例題にかける時間を調整し、学習内容を主体的かつ問題解決的に理解、深化できるよう教えながらも考えさせたり、考えさせながら内容の理解に迫ったりするなど指導を工夫している。 ・数学的活動を通した学習内容の理解や深化に努め、算数の良さや日常生活への適用をより図っている。「比例」の学習では、自分たちでデータを取って表を作りグラフ化し、変化などを読み取る活動を行っている。	
音楽		学全学年、リズム奏や楽器の演奏、音楽づくりにおいて意欲的に取り組む様子がみられる。とりわけ楽器の演奏には大変興味を持っている。 学曲想をイメージしたり、思いを表現したりする技能はまだ不十分である。基本的な奏法を身に付け、互いの演奏を聴き合う力を付けることが課題である。	・思いに合った表現をするために必要な互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付ける必要がある。 ・音程やリズムに気を付けて、友達の音をよく聴きながら合わせて演奏したり、伴奏を聴きながら演奏したりして音を合わせる楽しさを感じ取るようにする必要がある。	・一つのフレーズごとに交互に演奏したり、リレーのようにつなげて演奏したりするなど、自分の音や友達の音を聴きながら、拍を意識して演奏することができるようにする。 ・表現の工夫の実現のために、考えたことを、試したこと、助言をもらったこと、再度試したことの、試行の流れが可視化できるようワークシートを利用し思いや意図を膨らませるようにしていく。	・合奏においては、個人の思いや意図を実現させるための技能を身に付けさせる必要がある。そのために、常時活動で継続的にリズムトレーニングを行うことが必要である、ワークシートを使用することで表現の工夫を実現させるようにし、友達と音を合わせる楽しさを感じ取るようにする。 ・児童自ら毎時間の「目標」の設定と「振り返り」を行い、次への自分の課題を認識し、個人の課題を明確にする。 ・できるようになった箇所を自分で色を塗る。課題を可視化することで児童個人に合わせた指導や助言ができる。	
図工		学全学年、造形活動を行うことが好きで、意欲的に取り組もうとする様子が見られる。表現や鑑賞の活動に前向きに取り組み、よく考え素直に表現する力がついている子が多い。 学表現することは好きだが、材料や場の違いを味わいながら表現を深めていくといった、追求する活動には結び付きにくい。また、手先や体全体を使っての活動、材料や用具の良さを活かして発想を広げる活動が、今後の課題と考える。	・材料や場、友達とかかわる中で、ものづくりの楽しさを味わう。また、表現することの良さや価値を見つけ認め合えるような力を、活動を繰り返す中で身につけていく必要がある。 ・みんなでつくる難しさや協力する素晴らしさを味わう中で、「共生」できるよう互いに認めあえる児童を育成したり、互いの良さや違いに気付いたりできるような場面指導を行う必要がある。	・1 年を通し、児童の実態に合わせ「感じる－考える－関わる－表す」という流れが何度もスパイラル状に続いていくような題材を検討し、テーマ・材料・場を厳選し授業を行う。 ・「ねらい」の明確化と言葉による「振り返り」を毎授業で取り組む。題材ごとに、考えたこと、試したこと、うまくいったことなどをはっきりさせ、習得したことが積み重なっていけるよう意識し学力の向上を行う。	・全学年、造形活動を楽しむ中で、各自で考えながら表現することができている。 ・昨年度と比べると、児童同士の交流や鑑賞の時間も増やせている。12 月の展覧会も効果的に計画し、つくるだけではなく、見ること、かかわることなどの学びを深める場を保障する。タブレットなども有効に活用し、表現と鑑賞の時間をきちんと確保することで、活動の幅を広げ、個々の表現がさらに深まるようにする。	

特支					

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況　※分量は２ページ以上となってもよい。